



凡人くらぶ
清水 宏 議員

▼「市民が主役」というスローガンについて

Q その真意は何か。

A 市民の皆様がそれぞれの暮らしの中で一人一人輝き、また、それぞれの立場で市政、政治を身近に感じてほしいと思い、市民が主役という表現を掲げている。

Q 市民の意見を吸い上げる仕組みをつくる必要はないのか。

A 町内会・自治会、各種地域団体、スポーツ団体などに、私みずから積極的に入っていきたくて思っている。また、市の職員にも積極的にそういう団体に入り、住民の方々が何を思っているのかを肌で感じてもらいたいと願っている。

▼大介護時代の到来について

Q 高齢者単身世帯、高齢夫婦世帯、それに未婚の子供が加わった三つのタイプの家庭が全人口の七十二・六%になったとの調査があるが、島原市の状況はどうか。

A 平成二十二年の国勢調査によると、高齢夫婦などの高齢者のみの世帯が四千百二十四世帯である。また、全世帯に占める高齢者のみの世帯が二十四・三%であり、今後増加すると思われる。

Q 少子化の進行により、親族だけでは介護できない状況になっていると思うがどうか。

A 国でも社会構造の変化に備え、介護をする人材の育成を図り、在宅介護、訪問介護等を充実させ、できるだけ住み慣れた地域で高齢者の方が過ごせるように考えている。本市も介護事業の充実と合わせて、元気に健康で過ごし、介護を受けず、健康寿命を延ばすことに力を注いでいきたい。

Q 個人情報保護法が、地域の高齢者の助け合い組織をつくる中でマイナスになっていると思うがどうか。

A 個人情報保護法の運用は自治体の裁量に委ねられている部分があり、本市では審議会等の意見を聞きながら、本人の権利、利益の保護と公益性、公共性の観点から、公にすべき情報の流通と両立させるような運用を基本としている。

【その他の質問項目】

◇ 船津地区高潮対策



新風会
永田 光臣 議員

▼島原半島三市の連携強化について

【関連質問】

Q 島原道路や半島内の道路、交通網の整備について、半島三市が一体として取り組む必要があると考えるが市長の考えはどうか。また、先般行われた半島三市の市長、議長による道路整備の県への陳情に古川市長が参加されなかった理由は何か。

A 半島という地域性のため、県央地区へ行くのに時間がかかるという課題がある。島原半島一体となって、県央地区へのアクセスが早期に改善されるよう進めていきたい。御指摘の陳情には、あいにく参加できなかったが、就任後、島原半島地域交通機能強化検討委員会では、島原半島の道路網の勉強、島原道路の必要性について意見を発表した。また、島原・天草・長島架橋構想及び九州西岸軸構想推進大会においては、島原市側の代表として、島原の道路の必要性等を述べてきた。今後は道路に限らず、島原半島一体として取り組むべきことは積極的に機会を設けていきたい。

議会を傍聴しましょう

議会では、市民皆様の日常生活に関係のある重要な問題が審議されます。そのほか市政全般についての一般質問も行われます。定例会は3月、6月、9月、12月に年4回開かれます。お気軽に傍聴にお出かけ下さい。傍聴席の定員は60人です。議会日程などお問い合わせは、議会事務局まで。 TEL 62-8027